

## 2023年12月期第3四半期決算概要

2023年11月1日  
コクヨ株式会社

# コクヨの

# ヨコク

## 目次

1. 2023年12月期 第3四半期実績
2. 2023年12月期 通期目標
3. 参考資料

※ それぞれの事業は以下のように表記しています。

ファニチャー事業=FN  
ビジネスサプライ流通事業=BS  
ステーションナリー事業=ST  
インテリアリテール事業=IR

※ 百万円未満を切り捨てています。  
そのため内訳と合計及び差額が一致しない場合があります。

### [2023年12月期第3四半期実績について]

- ✓売上高については、日本FN事業における案件獲得を始めとして、期初に掲げた施策が概ね順調に進捗し増収
- ✓営業利益については、第3次中期経営計画に掲げる施策が順調に進捗していることで戦略経費が増加しているものの、日本FN事業の収益性向上やインドST事業における粗利率の改善等により、対前年で大幅増益

### [2023年12月期通期目標について]

- ✓第2四半期決算発表時(2023年7月31日発表)の修正目標値から変更点はなし
- ✓売上高については、中国経済悪化影響による不透明感が続いているが、コクヨ香港の通期連結化に加え、日本FNの好調継続及び中国STとインドSTの回復・成長により増収
- ✓営業利益については、第3次中期経営計画に掲げる人材関連やサステナビリティ系施策が順調に進捗していることで戦略経費増を見込むも、引き続き日本FN事業における案件獲得にかかる効率性や収益性向上等が順調に進捗しており増益
- ✓当期純利益については、営業増益に加え政策保有株式売却益等も奏功し、過去最高を見込む
- ✓配当については、配当性向40%及び安定的な増配を目指し、対前年で8円増配となる65円(うち2Q:32.5円)を実施

### [資本政策について]

- ✓中長期的な課題を認識し継続的な議論を進めており、政策保有株式の縮減を進めることで非事業資産の着実な圧縮に努めている他、2024年までに50億円の自社株買いを実施することで総還元性向50%以上を目指す
- ✓第2四半期決算発表時に資本政策をアップデートしたことに伴い、直近の株価が堅調に推移していることもあり、今後への期待も含めて一定の評価を得られていると考えているが、更なる資本政策見直しについては、2025年から始まる第4次中期経営計画に向けて検討
- ✓自己株式については、発行済株式総数の5%を超える部分の消却を実施済み



# 1. 2023年12月期 第3四半期実績

## 2023年12月期 第3四半期業績（対前年）

売上高、営業利益および当期純利益がともに対前年を上回って好調に推移

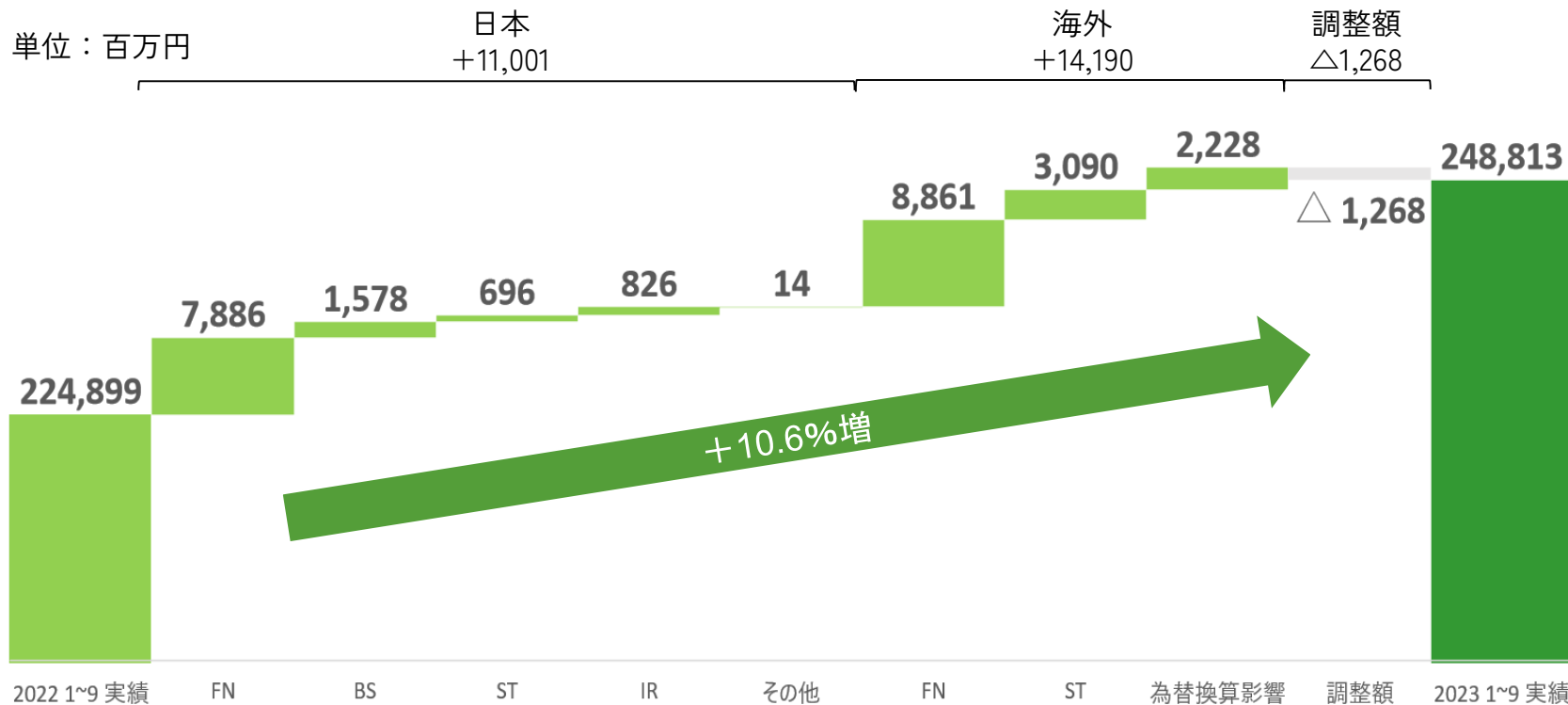
単位：百万円

	2022 1~9 実績	2023 1~9 実績	前年比 増減率	2022 7~9 実績	2023 7~9 実績	前年比 増減率
売上高	224,899	<b>248,813</b>	+10.6%	68,474	<b>75,227</b>	+9.9%
売上総利益	87,246	<b>96,737</b>	+10.9%	26,027	<b>28,727</b>	+10.4%
（率）	38.8%	<b>38.9%</b>		38.0%	<b>38.2%</b>	
販売費及び一般管理費	72,283	<b>77,059</b>	+6.6%	23,796	<b>24,823</b>	+4.3%
（率）	32.1%	<b>31.0%</b>		34.8%	<b>33.0%</b>	
営業利益	14,963	<b>19,677</b>	+31.5%	2,231	<b>3,904</b>	+75.0%
（率）	6.7%	<b>7.9%</b>		3.3%	<b>5.2%</b>	
経常利益	17,555	<b>21,667</b>	+23.4%	2,941	<b>4,400</b>	+49.6%
（率）	7.8%	<b>8.7%</b>		4.3%	<b>5.8%</b>	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13,053	<b>14,874</b>	+14.0%	2,207	<b>3,127</b>	+41.7%
（率）	5.8%	<b>6.0%</b>		3.2%	<b>4.2%</b>	

# 売上高増減分析：対前年

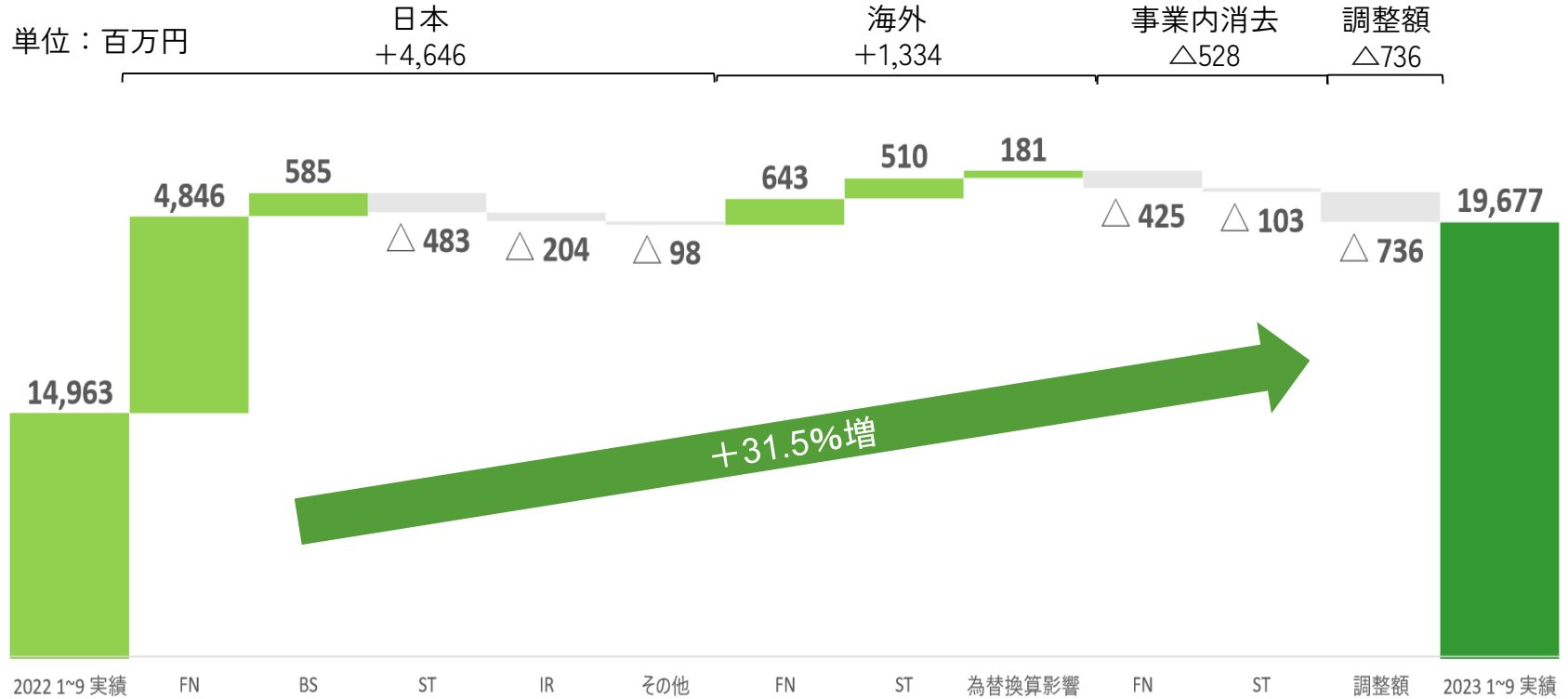
日本：好調に推移するFN事業を中心に増収

海外：FNにおけるコクヨ香港連結子会社化及びSTの伸長が増収に寄与



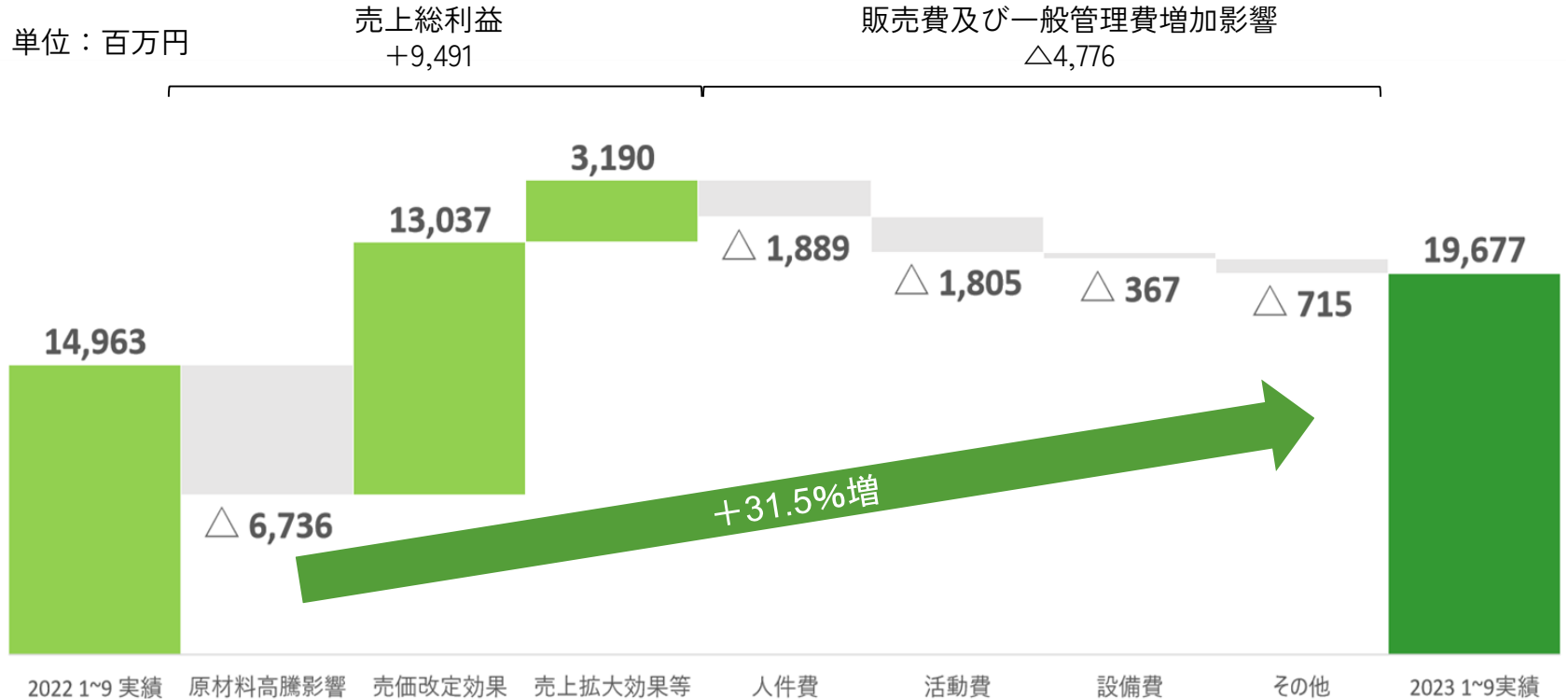
# 営業利益増減分析：対前年

## 主に日本FNにおける増収効果により増益



# 営業利益増減分析：対前年

原材料高騰や人件費等といったコスト増影響を受けるも、  
昨年実施した売価改定効果により収益性が向上

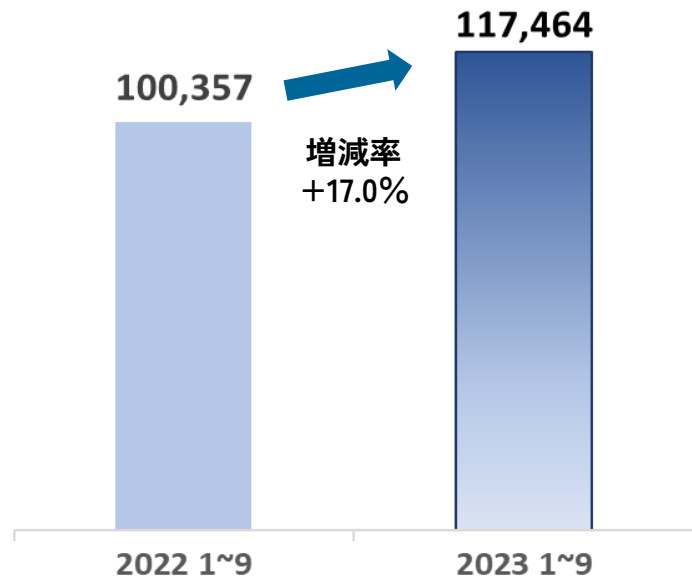




日本の旺盛なオフィス需要の取り込みと、海外事業の成長を目指す  
日本において効率的な案件獲得が順調に進捗し、業績拡大と収益改善が進む

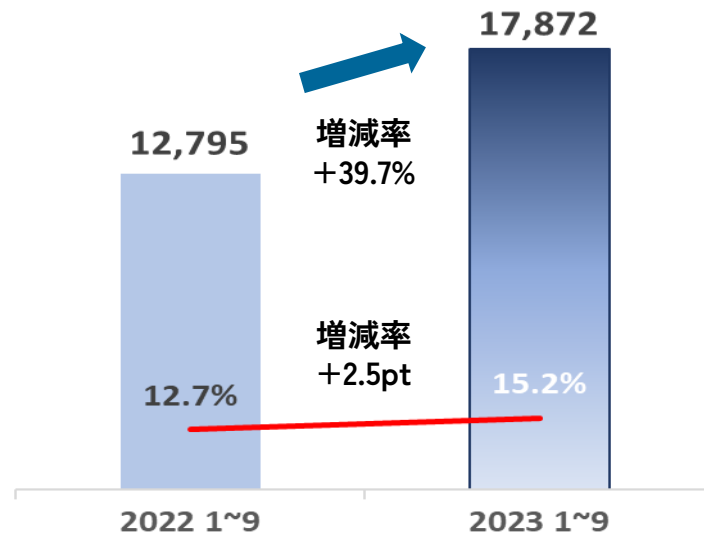
売上高推移

単位：百万円



営業利益推移

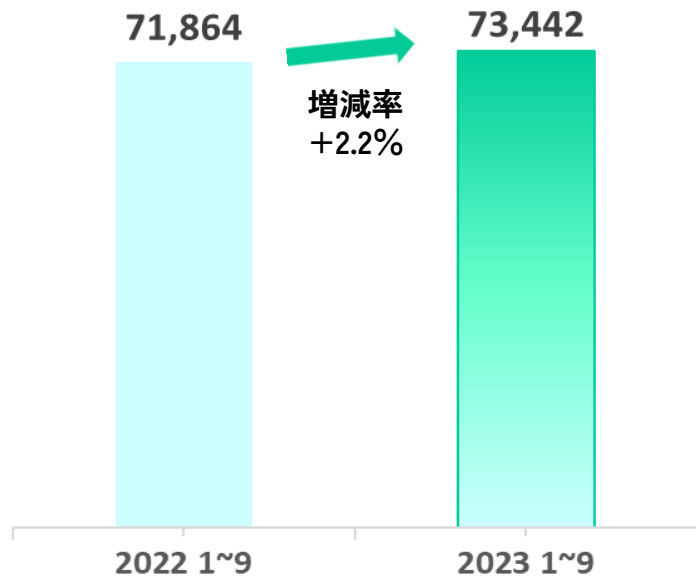
単位：百万円



UI/UXの改善等の顧客体験価値向上に向けた戦略推進により事業拡大を目指す  
売価改定が浸透したほか、大規模顧客向けシステムソリューションが好調に推移

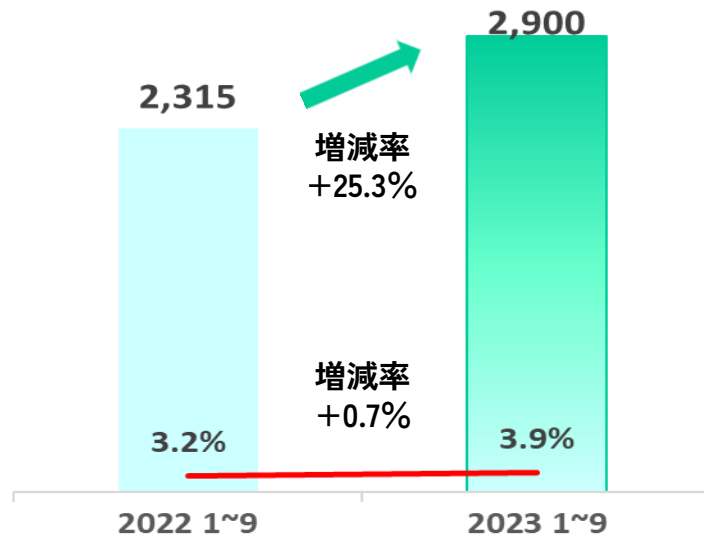
売上高推移

単位：百万円



営業利益推移

単位：百万円

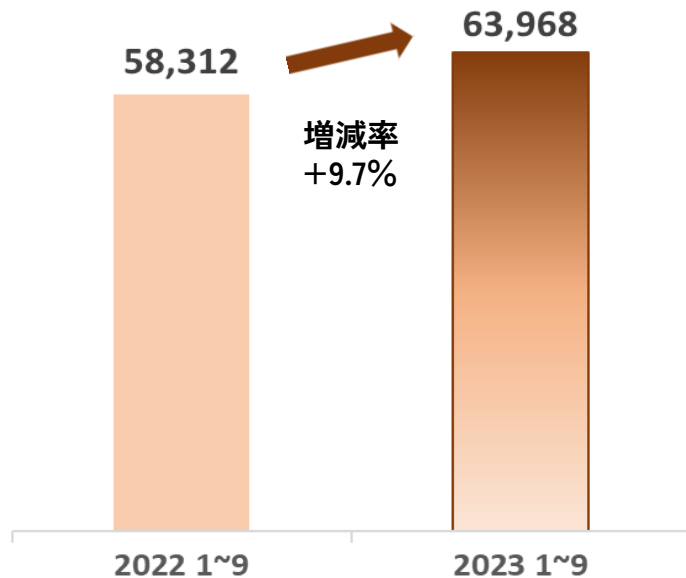


## ライフスタイル領域：ステーションナリー事業

日本においては、事業リソースの最適化を図るも需要の低迷が続き収益性低下  
海外ではインドにおける粗利率改善により増益となるも、中国経済悪化影響による不透明感が続く

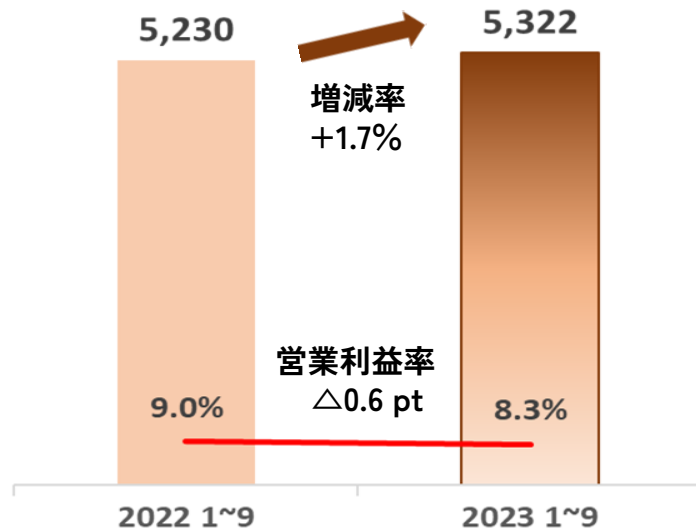
### 売上高推移

単位：百万円



### 営業利益推移

単位：百万円

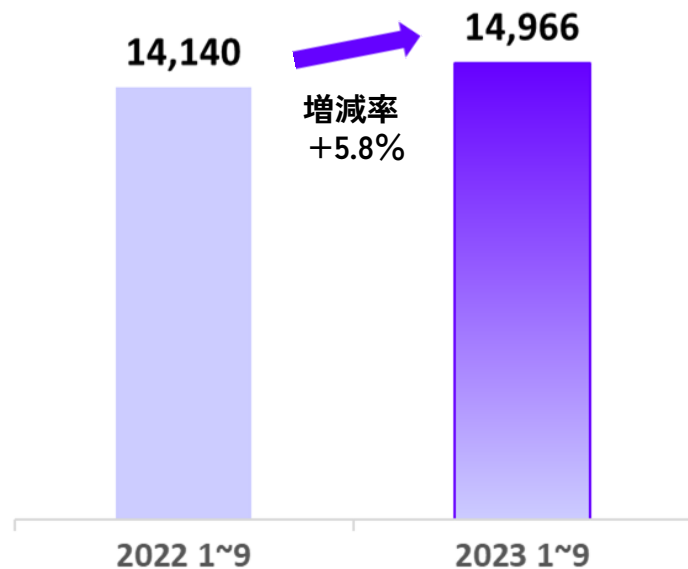


## ライフスタイル領域：インテリアリテール事業

イエナカ需要が収まりつつある中で、ECを活用した販促活動の進捗等により増収  
一方で、円安の進行および販管費の増加を吸収できなかったことにより減益

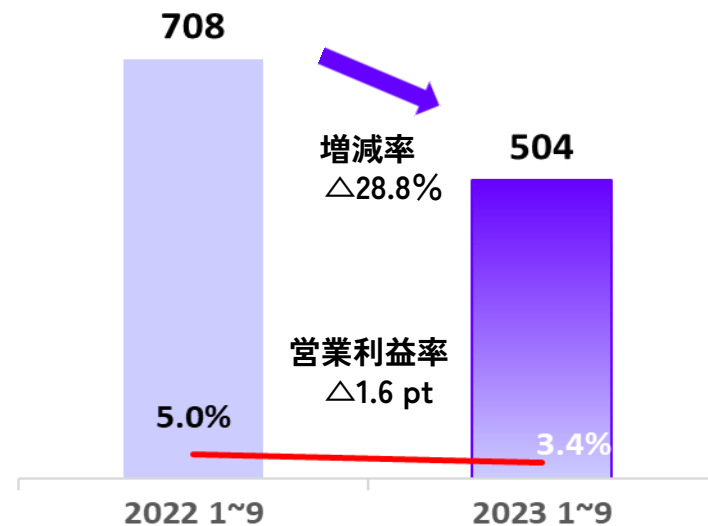
### 売上高推移

単位：百万円



### 営業利益推移

単位：百万円





## 2. 2023年12月期 通期目標

第2四半期決算発表時の修正目標値から変更なし  
 当期純利益は過去最高を見込む

単位：百万円

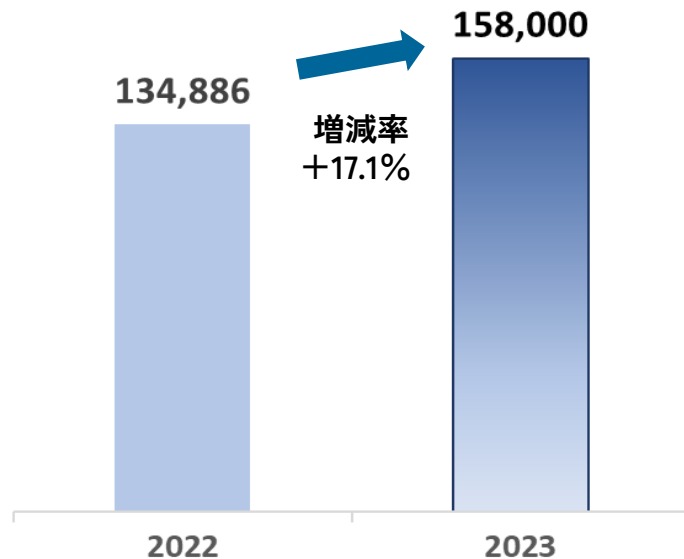
	2022 実績	2023 期初目標	2023 修正目標	前年比 修正目標増減率
売上高	300,929	337,000	<b>337,000</b>	+ 12.0%
売上総利益	116,671	130,200	<b>130,500</b>	+ 11.9%
(率)	38.8%	38.6%	<b>38.7%</b>	
販売費及び一般管理費	97,543	110,200	<b>107,500</b>	+ 10.2%
(率)	32.4%	32.7%	<b>31.9%</b>	
営業利益	19,128	20,000	<b>23,000</b>	+ 20.2%
(率)	6.4%	5.9%	<b>6.8%</b>	
経常利益	21,161	21,400	<b>25,200</b>	+ 19.1%
(率)	7.0%	6.4%	<b>7.5%</b>	
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,237	15,600	<b>18,500</b>	+ 1.4%
(率)	6.1%	4.6%	<b>5.5%</b>	

※2023年12月期第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年12月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

オフィス市場環境が良く顧客からの引き合いが好調に推移する日本事業において、  
業績拡大や収益改善が進展し目標を達成する見通し

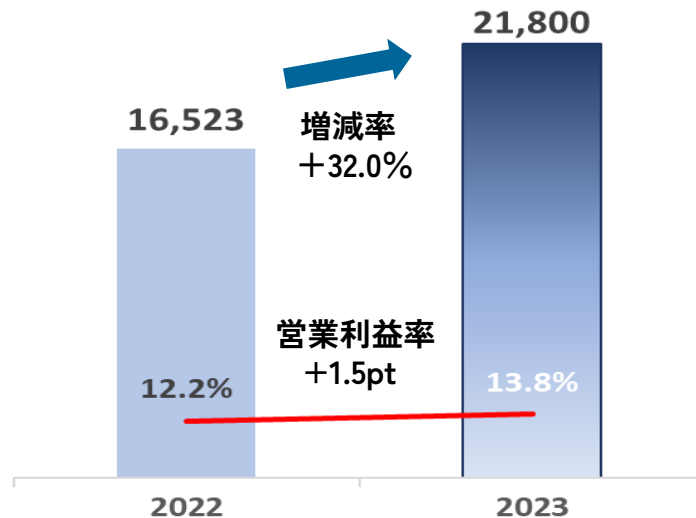
売上高推移

単位：百万円



営業利益推移

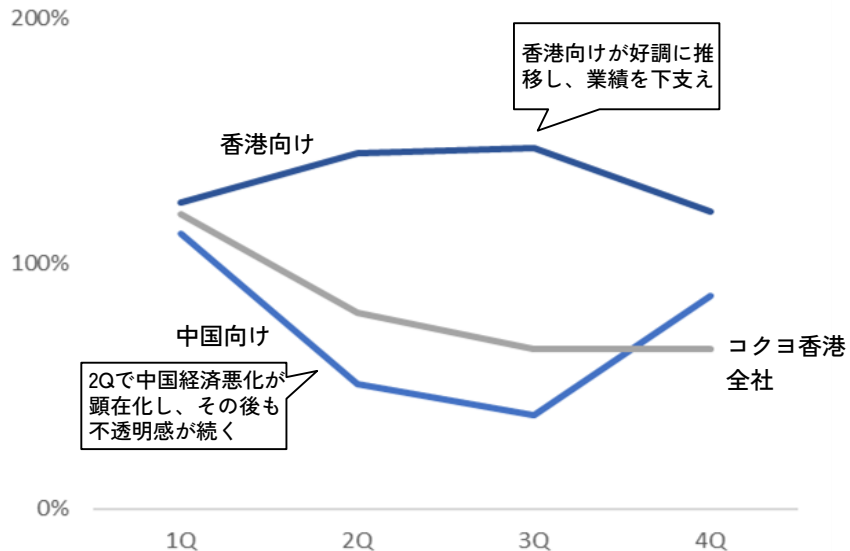
単位：百万円



# 中国ファニチャー事業の状況

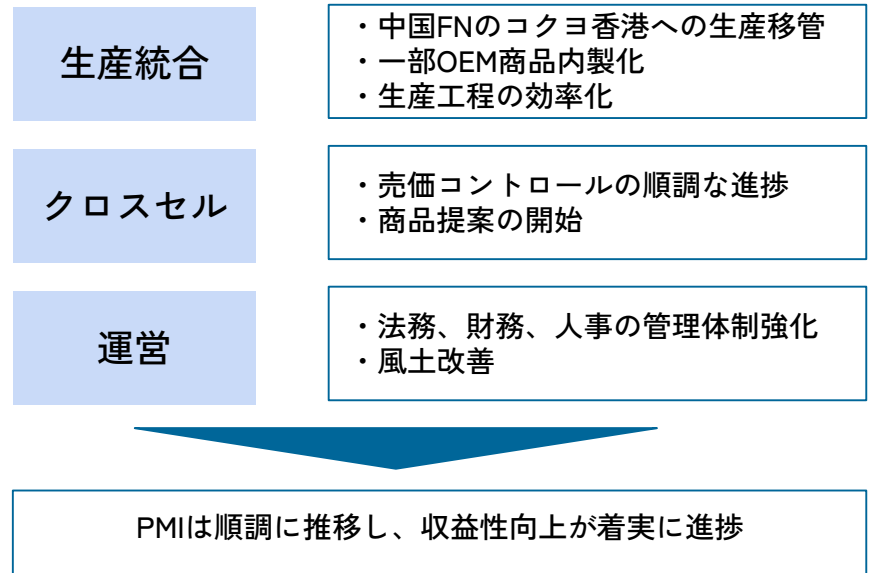
コクヨ香港は、香港向けが好調に推移するも、中国経済悪化影響による不透明感が続く  
PMIの進捗により売価コントロールや販管費の管理体制を強化し、業績向上を図る

## コクヨ香港 向け先別売上高推移(対当初計画比)



※2023年10月上旬時点での見込み数値です。

## コクヨ香港PMI進捗



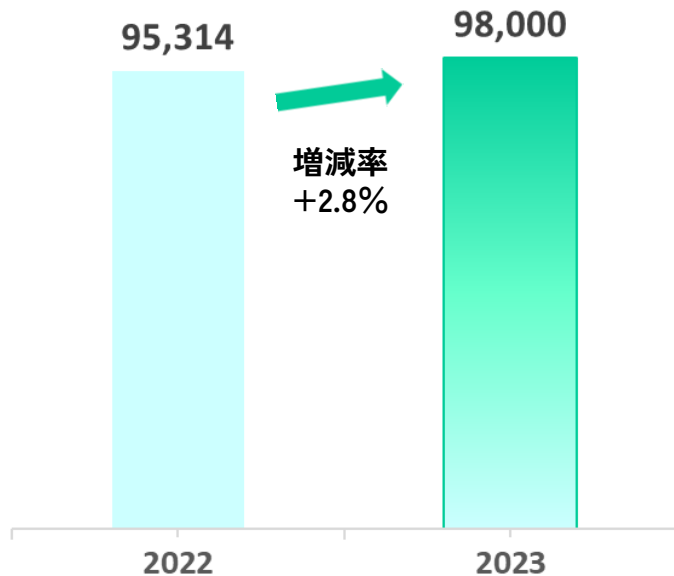


引き続きUI/UXの改善等施策を推進

EC化の着実な進展によって、顧客体験価値向上による事業拡大を目指す

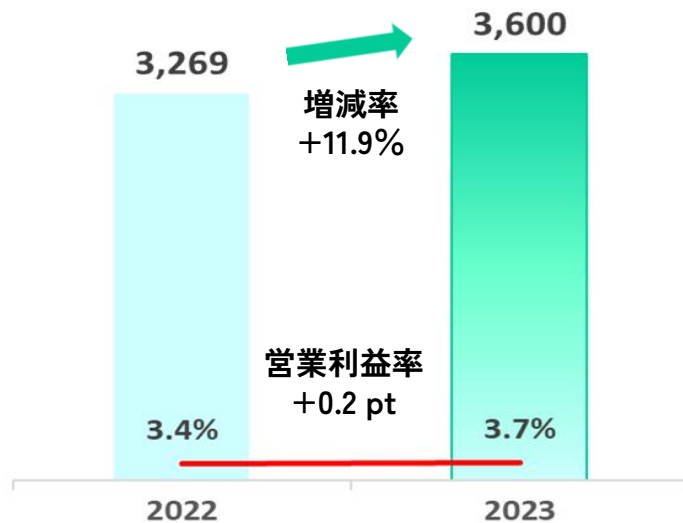
売上高推移

単位：百万円



営業利益推移

単位：百万円

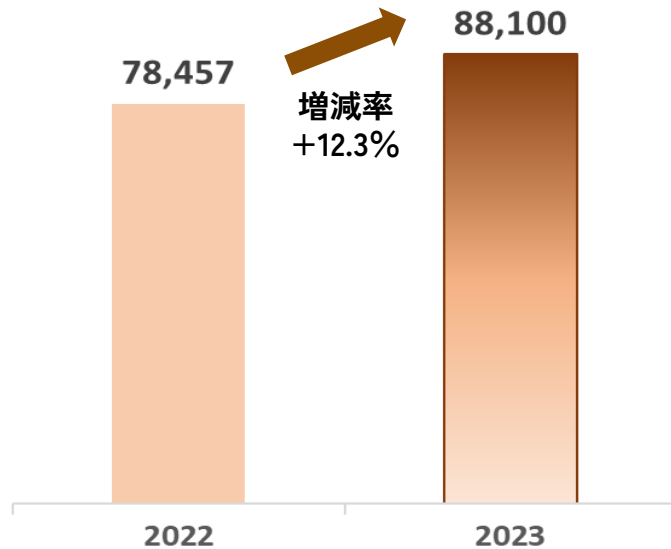


# ライフスタイル領域：ステーションナリー事業

グローバル成長による増収増益を目指す  
中国およびインドを中心に市場成長を捉えた業績拡大を図る

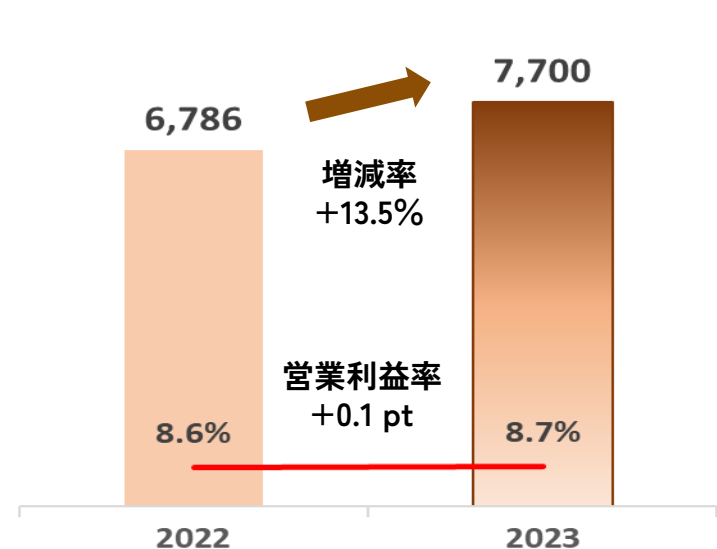
### 売上高推移

単位：百万円



### 営業利益推移

単位：百万円



## 中国経済悪化影響による不透明感が継続 学生向けに付加価値を訴求する女子文具需要は引き続き旺盛

好調に推移する直営店業績

【直営店舗：Campus STYLE】

- 顧客の購買行動理解と体験価値向上に向けたダイレクトマーケティングの強化を目指し2022年7月出店
- 直近の売上は対前年3割増で推移



過去最高の集客

【KOKUYO HAKU上海 2023】

- 「Summer Life」をテーマに学生をターゲットとした約1,000品番の商品を出品
- 来場者数は9,200人と過去最高を記録



# 海外ステーションナリー事業の更なる拡大に向けて

## 海外ステーションナリー事業の更なる拡大に向けて、付加価値文具として伸長著しい 中国女子文具のアジア他エリアへの展開可能性を探る

### アジア他エリアでのPOP UP SHOP事例

- SNSの普及を契機に自己表現ニーズが高まる
- これまでECサイトに限定されていた顧客接点強化を図る
- 現地人気モール内に出店し、中国学生に人気の「Pastel Cookies Sora」シリーズ  
の他、日本で人気の「GOODTOOLS」シリーズ等を展開



マレーシア(2023年3月、6月)



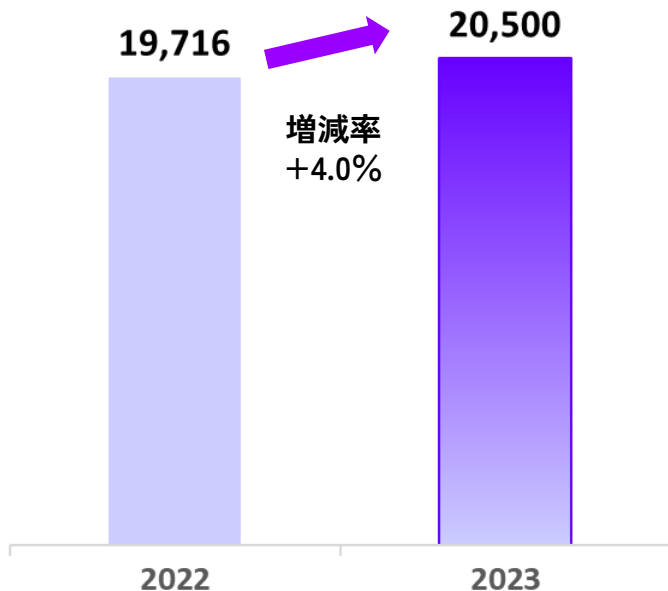
タイ(2023年10月)

## ライフスタイル領域：インテリアリテール事業

為替影響を受けるも、引き続きEC強化で業績拡大を目指す  
需要が伸びるオフィス領域での存在感拡大を狙う

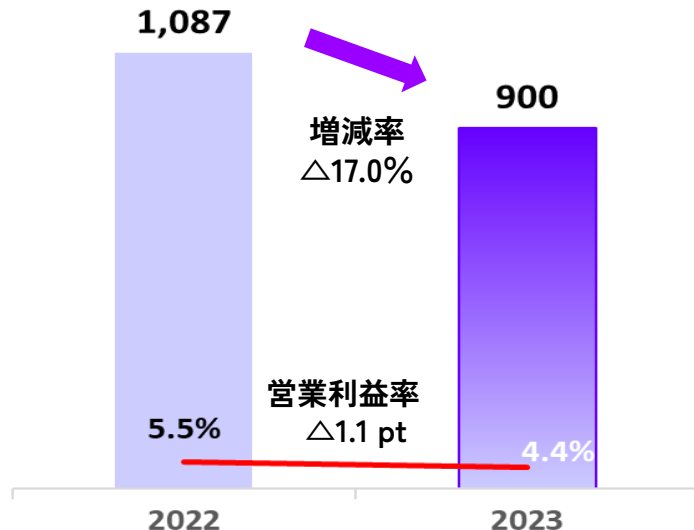
### 売上高推移

単位：百万円



### 営業利益推移

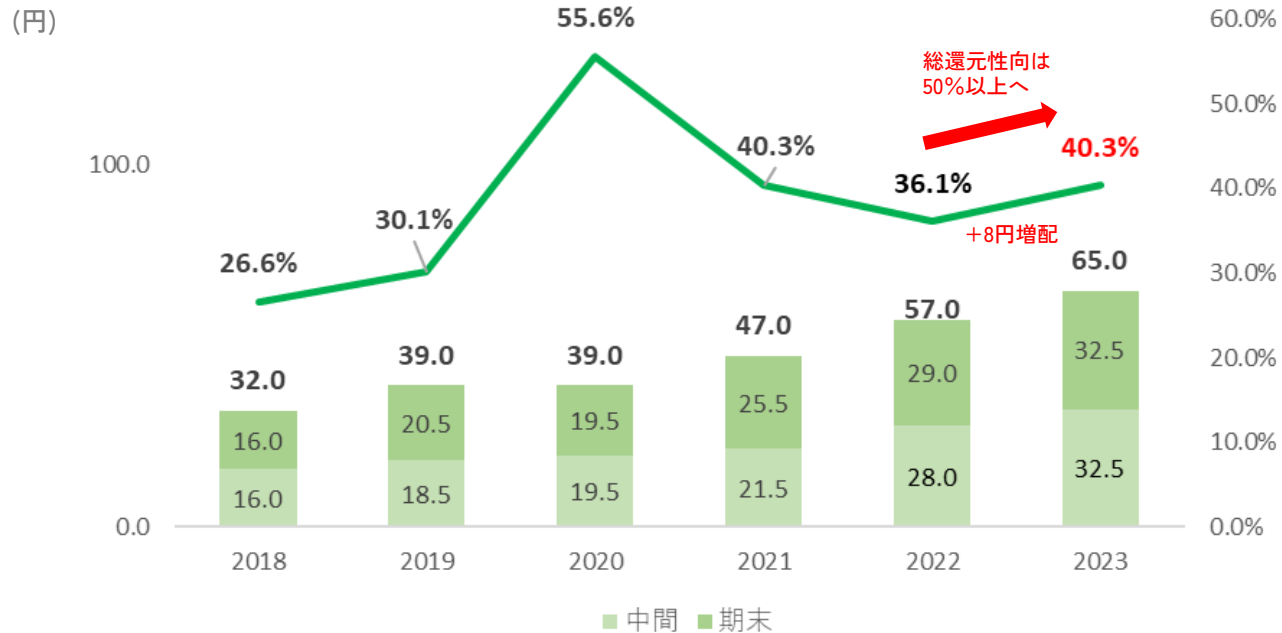
単位：百万円



# 株主還元

第2四半期決算発表時の修正予想値から変更なし  
配当性向40%と総還元性向50%以上を目指し、自社株買いを含む株主還元を実施

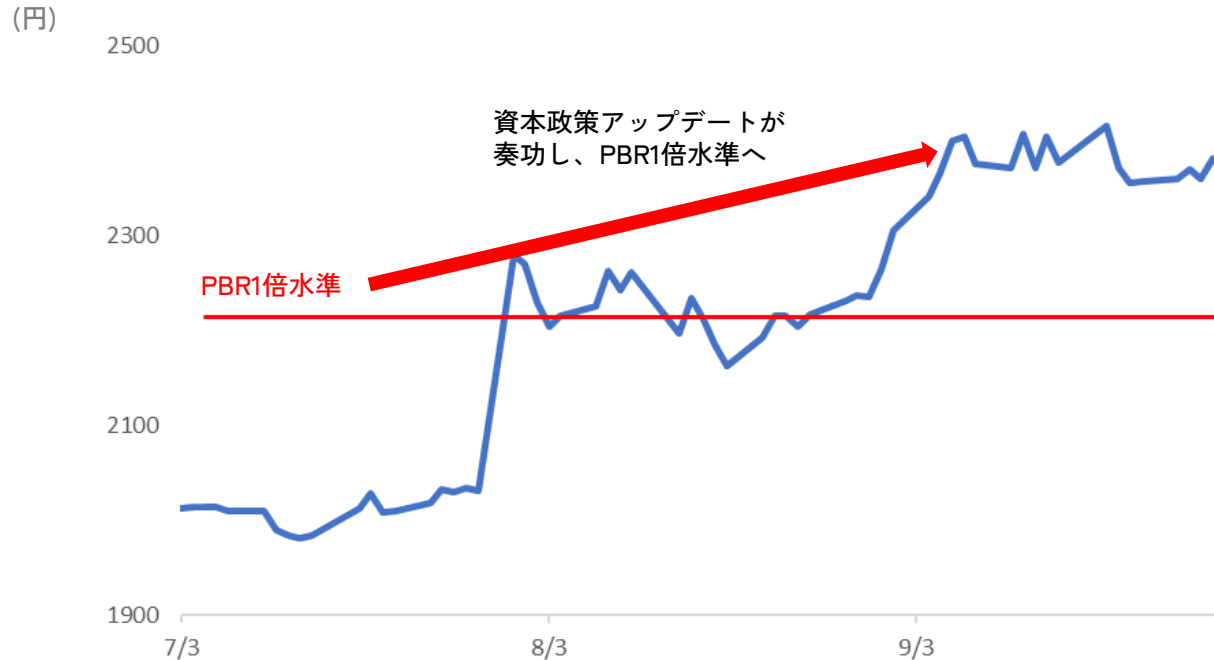
## 配当額および配当性向の推移



# 株主還元

第2四半期決算発表時の資本政策アップデートに伴い、直近の株価は堅調に推移  
一定の評価を得るも、更なる資本政策の見直しを第4次中期経営計画に向けて検討

コクヨ株価推移(2023年7月~9月)





### 3. 参考資料



## 2023年12月期 セグメント別 通期目標

単位：百万円

		2022 実績	2023 期初目標	2023 修正目標	前年比 修正目標増減率
合計	売上高	300,929	337,000	337,000	+12.0%
	営業利益	19,128	20,000	23,000	+20.2%
	(率)	6.4%	5.9%	6.8%	
ワークスタイル領域	売上高	230,200	253,200	256,000	+11.2%
	営業利益	19,793	22,800	25,400	+28.3%
	(率)	8.6%	9.0%	9.9%	
ファニチャー事業	売上高	134,886	155,400	158,000	+17.1%
	営業利益	16,523	19,700	21,800	+31.9%
	(率)	12.2%	12.7%	13.8%	
ビジネスサプライ流通事業	売上高	95,314	97,800	98,000	+2.8%
	営業利益	3,269	3,100	3,600	+10.1%
	(率)	3.4%	3.2%	3.7%	
ライフスタイル領域	売上高	98,173	111,000	108,600	+10.6%
	営業利益	7,873	8,500	8,600	+9.2%
	(率)	8.0%	7.7%	7.9%	
ステーショナリー事業	売上高	78,457	90,400	88,100	+12.3%
	営業利益	6,786	7,400	7,700	+13.5%
	(率)	8.6%	8.2%	8.7%	
インテリアリテール事業	売上高	19,716	20,600	20,500	+4.0%
	営業利益	1,087	1,100	900	△17.2%
	(率)	5.5%	5.3%	4.4%	
その他	売上高	413	600	600	+45.3%
	営業利益	△133	△300	△320	-
	(率)	-	-	-	
調整額	売上高	△27,857	△27,800	△28,200	-
	営業利益	△8,404	△11,000	△10,680	-
	(率)	-	-	-	

〒108-8710 東京都港区港南1-8-35 THE CAMPUS

コクヨ株式会社 理財本部 IR室

E-Mail : [ir@kokuyo.com](mailto:ir@kokuyo.com)

# KOKUYO

※本資料で記載されている業績予想、将来予測は現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい